



酪農試験場だより



No.127

平成19年度家畜人工授精師講習会が開催されました！



平成19年7月3日～8月6日の22日間、家畜人工授精師講習会が開催されました。酪農や和牛繁殖に関係する32名の若手経営者や技術者の方々が受講されました。暑いさなかではありましたが、講義や実習に熱心に取り組まれ、全員がめでたく合格されました。受講された皆さんの今後の御活躍を期待します！

放牧の草地管理について

近年、放牧の良さが見直され、従来の公共放場の活用だけでなく、自作農地や近隣の遊休農地を活用し、経営の中に放牧を取り入れ、活用している農家が増えてきています。

放牧のよいところは、①自然に近い環境で飼養できること②傾斜地や広い牧区を動き回ることによって足腰も強くなり、さらに舎飼に比べて運動量はかなり多く健康維持に寄与していること(人間も健康維持のためには適度な運動が大切だと言われているのと同じでしょう)③広い牧区内を自由に動き回れることで束縛されることや牛群密度が低くなり、ストレスから解放されることなどがあげられます。

放牧草種としては、主に寒地型牧草のオーチャードグラス、トールフェスク、ペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラスなどが利用されています。

寒地型牧草の特徴は、寒さには強いけれども暑さには弱いということです。寒地型牧草は0℃以上で発芽をはじめ、生育には5℃以上必要で、生育適温は15℃～20℃とされています。そして、気温が25℃を超えると生長が衰え、夏枯れが発生しやすくなります(夏枯れは、夏の高温や乾燥で生育不良となって貯蔵養分を消耗し枯れてしまう現象です。)。このように、季節によって草の生産量が大きく違ってくるといえます。

生産性ももっとも高いのは春で、最高生産期をスプリングフラッシュと呼びます。この時期の草を上手に食べさせることが放牧地の草地管理を行ううえでとても重要になってきます。牛は結実した牧草を好んでは食べなくなり、不食過繁地となって草地の利用率が低下しています。その利用率の低下を防ぐには、余剰草を出さないように放牧地の一部を採草地として利用し、牧草が結実する前に刈り取る方法があります。また、放牧地を採草地として利用できない場合は①施肥を控え春のスプリングフラッシュを抑える②春の放牧開始時期を早める③放牧する頭数を増やし、放牧強度を高めるなどの方法があります。

季節やその年の気温・雨量等によって草の生長は大きく異なります。草の状態を日々観察しながら放牧を行い、よりよい草地管理に努めてください。

(南那須育成牧場 百武友紀子)





牛群検定成績の推移について



平成 18 年度の牛群検定成績速報が（社）家畜改良事業団から発表されました。

今回は、平成 18 年 1 月～12 月までに 305 日検定の終了した牛についての乳生産の成績と繁殖成績について過去の牛群検定データと比較してその推移を比較検討してみました。

● ● ● 乳生産 ● ● ●

乳量は少しずつではありますが年々増加してきています。乳脂肪率や乳蛋白質率も増加してきていますが、ここ 5 年間ではあまり変化がなく、乳脂肪率は約 3.8%、乳蛋白質率は約 3.25%で推移しています。

● ● ● 繁殖成績 ● ● ●

過去の成績は、分娩間隔および搾乳日数が乳量の伸びに伴って増加する傾向を示していましたが、ここ 5 年間ではあまり変化がなく、分娩間隔は約 440 日、搾乳日数は 375 日で推移しています。乳牛の改良等によって乳量が増加しても、それに伴って分娩間隔が伸びてしまえば経営の改善に貢献しませんので、飼料設計の見直しや発情兆候の把握に努めるなどして、分娩間隔を短縮できるようにしていきましょう。

一方、初産月齢は徐々に短縮されています。これは早期種付けが可能となる育成技術などの向上がその要因として考えられます。

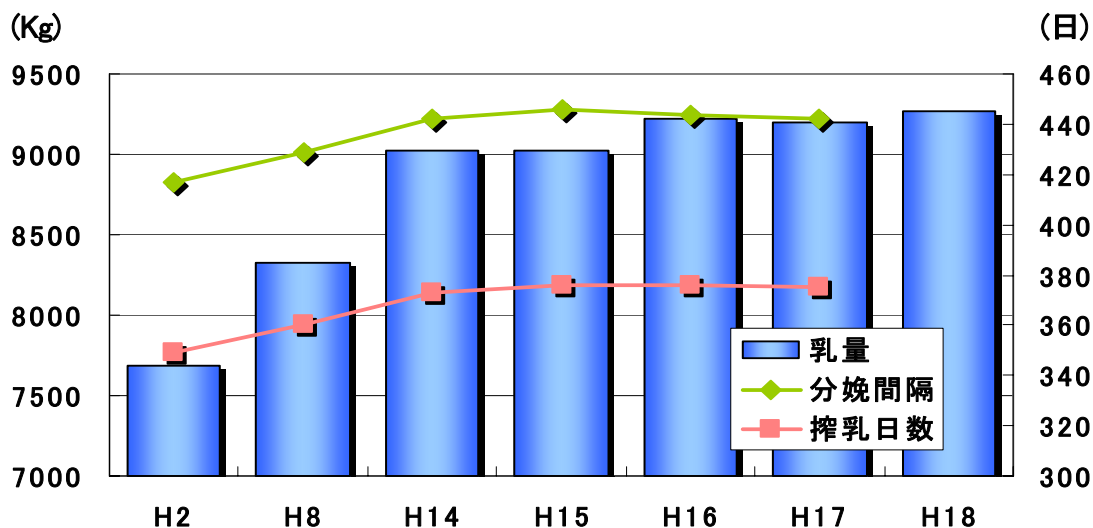
牛群検定成績には、我が家の経営を改善するための貴重なデータがたくさん示されています。この機会に、直近の成績・過去の成績を見つめ直し、短期的・長期的な目で我が家の経営改善を考えてみてはいかがでしょうか。

（飼養技術研究室 高山 未来 )

年度別牛群検定成績の推移

		H2	H8	H14	H15	H16	H17	H18
乳量	(Kg)	7688	8326	9023	9021	9218	9200	9271
乳脂肪率	(%)	3.61	3.70	3.80	3.80	3.82	3.80	3.80
乳蛋白質率	(%)	3.08	3.17	3.22	3.25	3.29	3.28	3.25
分娩間隔	(日)	417	429	442	446	444	442	-
搾乳日数	(日)	349	360	373	376	376	375	-
初産月齢	(ヶ月)	27.0	27.0	26.0	26.2	25.8	25.7	-

* 乳量、乳成分は1月～12月の間に305日検定終了した数値



乳量、分娩間隔、搾乳日数の推移

第14回 酪農試験場公開デーが開催されます！

今回のテーマは「**-Power Up !! 栃木の酪農-**」

栃木県酪農協会主催「酪農フェア2007」「第19回栃木県ホルスタイン共進会」も開催されます！

平成19年10月6日（土）10:00～15:00



なるほどコーナー

研究成果展示
バイオガスエネルギー活用方法紹介
農業大学校コーナー

体験コーナー

乳しぼり体験・獣医さん体験
子牛ふれあい体験

お楽しみコーナー

- ・トウモロコシ無料配布
- ・ロールボールらがき
- ・シャボン玉で遊ぼう！
- ・ジャンボカボチャ重量あて
- ・麦ドライフラワーアレンジメント
- ・トウモロコシ巨大迷路
- ・堆肥無料配布
- ・季節のお花摘み取り
- ・栃木県食肉対策協議会による
県産食肉試食会

みんなが
来るのを
待っているよ



同日、道の駅「那須与一の郷」(大田原市)において、「第2回ふるさと那須地産地消フェア」が開催されます。

酪農試験場だより No.127 平成19年9月25日発行

栃木県酪農試験場 〒329-2747 那須塩原市千本松298

TEL 0287-36-0768 FAX 0287-36-0516

ホームページ：<http://www.pref.tochigi.jp/rakunou-s/index0.html>